

74新破天荒



令和四年度より
創刊
第29号

73回生卒業式

昨日2月29日木曜日、兵庫県立姫路南高等学校第73回卒業証書授与式が挙行されました。長い間、新型コロナウイルス禍に振り回された学校生活が続きましたが、ようやく学校本来の環境が取り戻され、ついには今回の卒業式では、式歌も解禁、保護者の参加人数も各家庭一人の制限が取れました。

74回生の皆さんにとっては、中学校入学、いや、ひよっとしたら小学校卒業式の辺りから奪われていた、「声」、「在校生」、「学び舎での振り返り」などの当たり前の時間を、来年は「主役」として過ごすことができる幸せを、73回生の卒業式から感じることもできましたか。

皆さんは、一年先にどんな顔をして「母校」を旅立つのか。そのために、姫路南高校最後の一年間をどう充実させて過ごすか。自分を裏切ることのないように頑張ってください。

末筆ながら、73回生の皆さん、保護者の皆様、学年に関わられた先生方等、改めておめでとうございました。そして、ご多幸をお祈りします。

この機会に

「三兎」

について考えてみましょう。

一番充実感を感じる「兎」は、「行事」ですよね。第3学年での文化祭や体育祭で、後輩たちに伝えるべき「追い方」を引き継いでほしいものです。

必死に取り組めるのは「部活動」ではないでしょうか。先輩たちに引継ぎてもらえた第1学年。立ち位置が、先輩をフォローしながら後輩を励ました第2学年。悩み・妥協・開き直りで、悔いを残して欲しくない第3学年。やりきった者にもみ与えられる達成感。

やりきることが目標ではなく、後になって笑って振り返ることができるように、自分の目標に悩んで自分の目標に向かって闘う、そんな日々となるように「二匹目」の兎を本気で追いましょ。

「三匹目」の兎はとても厄介です。ですが、いよいよ「逃げるのができない」「逃がすわけにはいかない」兎をどのように追っかけ、その兎にどう導いてもらうのか、そして、振り返ったときに

確かに追った「三兎」

と言える姫路南高等学校での三年間であってほしい。その集大成の最後の一年にしよう。

三月の手定

一日(金)	大学ガイダンス(三・四限) 午前中授業(①②⑤⑥)
五日(火)	球技大会 教育相談
六日(水)	学校間交流探究発表会
七日(木)	クリーンアップ作戦(四限)
八日(金)	大掃除 進級認定会議
十一日(月)	成績不振者指導(保護者も) 複数志願入試準備
十二日(火)	複数志願入試査
十五日(金)	生徒は十一〜十三日、十四日午前まで登校禁止 健康教育講演会(三限) 合格体験発表(四限)
十八日(月)	防災避難訓練
十九日(火)	合格発表・教育相談
二十日(水)	春分の日
二十一日(木)	写真撮影・教科書販売
二十二日(金)	終業式・合格者説明会
四月八日(月)	令和6年度1学期始業式

散歩道74

クラスコード 51uczkw

Start 23 → 2022 last 36

2023 start 38 → Now 52

2ndGrade start 52

→ Now 57

今月の

……の勧め

一年	「無駄」
五月	「諦めない」
六月	「捨てる」
七月	「チャレンジ」
一学期末	「さかのぼる」
九月	「テレビ」
十月	「大空間」
十一月	「無」
十二月	「こだわり」
二学期末	「信念」
一月	「探る」
二月	「自制する」
三月	「勇気を探す」
一年最終	
四月	「悩むこと」
四月2	「本気でぶつかること」
五月	「この世界の片隅を大切に」
六月	「主体性」
七月	「客観性」
一学期末	「ルーティーン」
九月	「スマホとの向き合い方」
十月	「詩に触れる」
十一月	「破壊する」
十二月	「想いを再生する」
2学期末	「夢を目に触れるようにする」
一月	「アナログ」
二月	「きっかけ」
三月	「一度諦める」

諦めの悪さ

と銘打って、2学年では「散歩道74」のメンバーと、連絡用ホワイトボードに、前日感じたこと、今の74回生、南高に向けて、休むことなく発信をして来ました。

自分には「諦めの悪さ」と言いながら、周囲にはいろいろな「過度な」期待を投げかけました。ただ、修学旅行を通じて、終えて様々なことを考える機会を得ました。

結果、自分の想いを「一度諦める」ことを行動にしてみました。

- ・ 出勤時間
- ・ 教室の鍵開け、窓開け
- ・ ホワイトボードのメッセージ配信
- ・ 期待
- ・ 毎授業後のレポート要求

自分にとっては大きな決断でした。今までの中で「しない」という選択肢はありませんでした。でも、それをしていくことに「気付く」人に出会えることを期待して、「一度諦める」ことを保っている「今」、「諦める」ことの難しさを感じています。

「何故か？」

目の前に、可能性を大いに持ちながら、ただまだ「自分」の未来に、本気で向き合い切れない人達を見て、

「自分のことじゃない」

と、思い続けることが、「どれだけ大変か」を感じる日々と、意地悪な神様に振り回された結果、皆さんに、「一度本気で諦める」ことを進めたくまりました。

神様の意地悪

「一度諦める」と決めた直後の2月になり、多くの卒業生から連絡をもらいました。

年賀の時期を外した寒中見舞いには、年賀状とは違い文字で埋め尽くされた葉書で、私の「諦める」心を妨げるものでした。

駅伝の先導バイクでレースを作るドライバーには、高校時代に私を激怒させて「破門(当時は笑いで済まされることではなかったですが)」した生徒ですが、大学卒業を前に、わざわざ転動した次の学校を訪ね、自分の気付きを話してくれました。レース後、連絡が取れた際には、白バイ隊員として頑張っていること、白バイ技術の近畿大会で優勝したことを伝えてくれました。

「時の過ぎゆくまま」ではなく、「時の中で」真剣に自分と向かい合って生活してくれた証拠が「今」なのだ実感させられながら、「何故いまこの話に?」と、私に対する神様の悪戯も感じました。

学年末考査の2日目には、大学3年生の連中が、最近の学年通信の内容から何かを察したのか、「僕達Z世代」が相談に乗りますよと、はりま勝原駅まで訪ねてくれました。

今までは話を聞くことの方が多かったのですが、今回は圧倒的に話を聞いてもらいました。と言うよりも、たくさんのことを質問しました。「Z世代」の生かし方、傾向、不安……。二人は工学系の学生ではありませんが、やはり「書く作業」の減少に警鐘を鳴らしていました。書けば良いというものではないですが、理解したいが不十分なときには、やはり書いて確認するべきだ、新入生はそれが無い傾向が強くなって来ている。それは同じZ世代から見てもとても心配な、まずい傾向だと、強く言われました。それと最後にこっそり「くどく、ぼやきが多いのは気をつけて・・・」と。有り難い卒業生達です。

トドメは、日曜日。某マツクのドライバーズルーの出来事。高校時代なら絶対に声も掛けてくれることとはなかっただろう卒業生から、「先生ですよね!」お金を払う僅かな時間で、たくさん会話をしました。何が嬉しかったか。気付かない振りは幾らでもできたタイミング、卒業以来の出会いに、高校時代とは違うアプローチができるようになった経験をしてくれていることが。

これを「神様の意地悪」で片付けるべきでない。「神様がチャンスくれた」と。真剣に「諦める」ことを求めたから、真剣に「考える」、「振り返る」チャンスを与えてくれたと思えます。

「生きる」とは不思議なものです。「諦めよう」としたはずなのに、景色を拓けてみればそう簡単に「諦め」させてくれない。

その力を、その助けを与えてくれた卒業生達より皆さんには可能性があります。ただ、自分の可能性を大切にすることは、まだまだ劣っています。

本気で自分を鍛えてみませんか

と、また懲りずに言っている自分にあきれているの

かもしれないし、その気持ちを手放そうとしている「私」に、卒業生達が「ふざけるな」と「一喝」をしてくれたのだと思います。

皆さんの先輩方が数多くのアドバイスを、卒業式後も自分の可能性を信じて、国公立大学中期・後期に向けて準備をしながら、前期の結果を待っている姿でしてくれています。

74回生の中に、その姿を自分の可能性に生かしてくれることを、「改めて」期待します。言うだけでなく、信じてもらえるように、私達もまた、行動で示さないとはいけませんよね。